

暗

三年 画数 13
筆順 暗
オン アン
クン くらしい

成り立ち



「門の中で音だけがきこえて、ものが見えない」といういみの「闇」と「日」とを組み合わせて作った字で、「日が見えない」→「くらしい」といういみをあらわしたものです。

「くらい」といういみから、「黒ずんだ」といういみにもつかれます。例暗緑色、暗紅色。

「学問や道理にくらい」→「おろか」といういみにもつかれます。例暗愚。

「闇（ものが見えない）」のいみにもつかれます。例暗礁、暗流。

また、「見ないでする」いみにもつかれます。例暗唱、暗記。

使ひ方

▽日（ひ）が落ちて、あたりが暗（くら）くなったので、急（いそ）いで家（いえ）へ帰（かえ）りました。

▽暗（くら）がりから、いきなり、なにかがとび出（だ）して来た（き）ので、びつくりしました。よく見（み）ると、ネコ（ねこ）だったのでほっとしました。

熟語例

▽暗愚（あんぐ）（道理（道理）に暗（暗）く、愚（愚）かなこと。「むかし、ある国（くに）に、暗愚（暗愚）な王（おう）さまがいて、けらいたちをこまらせておりました」などというふうには、つかいません。）

▽暗礁（あんせう）（海（うみ）の中（なか）にかくれていて、見（み）えない岩（いわ）のこと。「暗礁（暗礁）に乗り上げる」といえば、文字（もじ）通り、船（ふね）が見（み）えない岩（いわ）に乗り上げて、身（み）動き（みずご）できない意味（いみ）にもつかいませんし、また、思（おも）いがけないことから、ものごとがうまくい（い）かないで、身（み）動き（みずご）がとれない、という意味（いみ）にもつか（つか）わ（わ）れ（れ）ま（ま）す。）

▽暗唱（あんてう）（文章（ぶんしょう）を見（み）ないで、そらで、口（くち）に出（だ）して唱（とな）えること。「国語（こくご）の時間（じかん）に、島崎藤村（しまざきとうむら）の詩（うた）を暗唱（暗唱）しました」というふうには、つかいません。）

医

三年 画数 7
筆順 一 ㄦ ㄥ 医
オン イ
クン

成り立ち



「はこ」の形をあらわし、「はこ」といういみをあらわした「匚」と、「矢」の形をあらわした「矢」とを組み合わせて作った字で、「矢をおさめておく」「はこ」をあらわした字ですが、今は、「醫」の略字としてつかわれています。

「醫は、投（な）げつけるぶき」の形をあらわした「爰（投 383）」と、「酒（さけ）を入れるうつわの形をあらわし、酒（さけ）のいみをあらわした「酉（酒 383）」と「医」とを組み合わせて作った字で、「びょうきをやっつける」「薬用酒（薬の酒）」をあらわした字です。「びょうきをなおす」といういみにつかわれます。また、「びょうきをなおすしごとをする人（医者）」といういみにつかわれます。

使ひ方

▽ぼくのおとうさんは、お医者（い）です。人（ひと）の病（びょう）気（き）やけ（げ）がを治（な）すのがしごとです。とても大（だい）へん（へん）なし（なし）ごとなので、一日（いちにち）のしごとが終（お）わった時（とき）は、いつも疲（つか）れ切（き）っていま（いま）す。でも、ぼくは、そんなおとうさんを尊（そん）敬（けい）していま（いま）す。

▽わたしは歯（は）医（い）者（しや）さんに行（い）きました。虫（むし）歯（は）が痛（いた）んで、しかたがなかつたのです。わたしは歯（は）医（い）者（しや）さんに行（い）くのは、いやでたまらなかつたけれど、行（い）かなければ、も（も）つと歯（は）が悪（わる）くなるので、我（わが）慢（まん）して行（い）きました。

熟語例

▽医（い）生（しや）（人の病（びょう）気（き）やけ（げ）を治（な）す人（ひと）。内科（内科）医（い）、外科（外科）医（い）、歯（は）科（か）医（い）、眼（がん）科（か）医（い）、その他（その他）、色（いろ）々（々）のお医（い）者（しや）さん（さん）がいます。）

▽医（い）学（がく）（人の体（からだ）について研究（けんきゅう）したり、病（びょう）気（き）やけ（げ）をどうや（どう）って治（な）すかを研究（けんきゅう）したりする学（がく）問（もん））

▽医（い）療（りょう）（医学（い）学（がく）によ（よ）って、治（な）療（りょう）するこ（こと）。人（ひと）の病（びょう）気（き）やけ（げ）を治（な）すこ（こと）。「山下（やまの）君（くん）のおかあさん（さん）は医（い）療（りょう）活（かつ）動（どう）にた（た）ずさわ（わ）つ（つ）てい（い）る」などというふうには、つかいません。）

▽校（がう）医（い）（学（がく）校（がう）のお医（い）者（しや）さん）

▽船（せん）医（い）（船（ふね）に乗り組（か）んでい（い）るお医（い）者（しや）さん）